

科目名	行動経済学Ⅱ Behavioral Economics Ⅱ						
科目担当者	萩原 駿史 HAGIHARA Toshifumi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]				ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)	
授業の概要	<p>行動経済学Ⅱでは、人の心理や行動を経済学から捉える行動経済学をテーマとして取り上げて解説していきます。</p> <p>主に、不確実性、プロスペクト理論、社会選好と時間選好、ナッジの順で解説をします。具体的には、第2～4回で不確実性下での人の選択、第5～8回で実際の人の行動に沿った行動経済学での理論モデル、第9～12回で他者の存在や時間が人の選択にどのように影響しているか、第13～14回で行動経済学を実社会にどう役立てるかの解説を行います。授業では、テキストを用いず、スライドを中心に進めていきます。</p>						
授業の到達目標	<p>① リスクある状況下での人の選択を理解できるようになる。</p> <p>② プロスペクト理論の特徴を理解できるようになる。</p> <p>③ 人の持つ公平性や双曲割引を理解できるようになる。</p> <p>④ ナッジの仕組みおよび実例を理解できるようになる。</p>						
授業計画・内容	1	授業の進め方					
	2	不確実性（1） サンクトペテルブルクのパラドックス					
	3	不確実性（2） リスク態度					
	4	不確実性（3） アレのパラドックス					
	5	プロスペクト理論（1） 価値関数					
	6	プロスペクト理論（2） 参照点依存性					
	7	プロスペクト理論（3） 損失回避性					
	8	プロスペクト理論（4） 確率加重関数					
	9	社会選好（1） 最後提案ゲーム					
	10	社会選好（2） 公平性					
	11	時間選好（1） 双曲割引					
	12	時間選好（2） ピークエンド効果					
	13	ナッジ（1） 選択アーキテクチャ					
	14	ナッジ（2） ナッジの具体例					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	各回の最後に説明する次回のテーマについて、自身の経験や社会での例を考えてください。また、経済学の見方を養うためにも、日頃から新聞や雑誌に目を通して社会の動きに注視しておくことが望ましいです。（毎週2時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	講義した内容の復習をしっかりと行ってください。講義で扱った理論や事例を実社会に照らし合わせて考えてみることで知識の定着や理解の深まりにつながります。（毎週2時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験				100%	①, ②, ③, ④	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書							
参考文献	筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，グレッグ・マルデワ『行動経済学入門』（東洋経済新報社，2017）						
その他	行動経済学Ⅰを併せて受講することが望ましいです。						